

1 研究主題

児童生徒が意欲的に学び、本物の力を付ける授業づくり
～地域の中でチャレンジする学習活動を通して～
1年次／2年

※本研究において「本物の力」とは、「場所や相手が変わっても発揮できる力」「社会で活用できる力」と定義する。

2 研究主題設定の理由

(1) 過年度の研究から

過年度の研究を通して見いだされた「授業づくりの5つのポイント」を活用して授業づくりに取り組む中で、「主体的・対話的で深い学び」の視点を生かした授業づくりを可能にする新たな要点をいくつか見いだした。それらを活用しながら、令和3年度、4年度の2年間は単元づくりをテーマに研究に取り組んだ。小単元や単元、もしくは年間を通した単元の繰り返しといった一定の内容や時間のまとまりの中で、知識・技能を習得する場面、それらを活用して課題を解決する場面、学習活動を振り返り、自身の成長を実感する場面、と「単元をつくる」ことを意識して取り組む中で、単元づくりのいくつかの要点を見いだした。また、児童生徒が地域に展開する学習活動に取り組むことで目標が明確になり、より意欲的に学習活動に取り組んだり、活動後には大きな達成感を得られたりする等、地域を活用する有用性も明らかになっている。これらの授業づくりや単元づくりの要点の活用、そして地域資源の活用を今後もスタンダードとしながら、より一層授業や単元の質の向上を目指していく。

一方で、授業、及び単元の中で知識・技能を有効に活用する場面を設定することや活用の様子を見取ること、そして児童生徒自身が学びを実感するための振り返りを十分に実施することには改善の余地があるのではないかと、という意見が挙げられた。併せて、有効な地域展開を含め、児童生徒が意欲的に取り組み、かつ一人一人が真に力を発揮するための学習活動の設定についても、検討していきたい。

(2) 学習指導要領から

いかに社会が変化しようとして活用できる確かな学力、豊かな心や人間性、そして、たくましく生きるための健康や体力を育む教育活動の展開の重要性が示されている。また、学校と社会が教育課程を介してつながることにより、地域でどのような子どもを育てるのか、何を実現していくのかという目標やビジョンを共有する「地域とともにある学校づくり」が一層効果的に進められていくことが期待されている。これらを踏まえ、学校や地域の特色を生かしながら、児童生徒が意欲的に学び、資質・能力を身に付けるための学習活動を展開し、児童生徒の変容を見取りながら授業改善することが必要だと考える。

(3) 学校の現状と児童生徒の実態から

本校は昭和49年に開校し今年度で創立50年目となる。全校児童生徒数は120名（小学部31名、中学部34名、高等部55名）である。児童生徒については、障害の多様化の傾向にあり、情緒の安定やコミュニケーション、集団参加に課題がある児童生徒や、各学部数名ずつであるが、生活全般に介助を要する児童生徒も在籍している。広大な農場、開校当時から本校に理解のある地域のよさ、新校舎の機能という本校の特色を生かした教育活動を計画的に展開し、定期的に児童生徒の変容を

見取りながら学習内容を発展させることで、幅広い実態の児童生徒が自立的に社会参加するために必要な「本物の力」を育成できると考える。

以上のことから、学校や地域の特徴を最大限に生かしながら、学習活動を展開する中で児童生徒に本物の力を付ける授業づくりを主題に掲げ研究を推進する。特に、児童生徒が学びを実感し、更に意欲的に学習活動に取り組むという好循環を生み出すためにも、振り返りの工夫に取り組みたい。これまで取り組んできた「主体的・対話的で深い学びの視点を生かした授業づくり」、「課題を解決する力を育てる単元づくり」を基盤に、授業づくりに取り組み、児童生徒が楽しみながら挑戦する中で資質・能力を育むことのできる授業づくりをし、目指す姿の実現を図りたい。

3 研究の目的及び目標

研究の目的は、児童生徒が意欲的に学び、本物の力を付けるために、授業の質をさらに高めていくことである。そのために、次のことを目標に設定する。

- ・児童生徒の実態把握から身に付けさせたい資質・能力を明らかにするとともに、興味・関心を把握し、一人一人が意欲的に力を発揮できる単元構成や地域展開を検討する。また、各教科等との関連付けを図りながら指導時期や指導内容を精選し、資質・能力を効果的に育むために、より有効な単元展開、授業展開を検討する。
- ・児童生徒が自身の学びや成長を実感するとともに、教師が単元や授業の改善を図るために、あらかじめ評価の方法やタイミングを計画した上で評価を実施する。また、振り返りの視点を定め、教師がそれらを確認しながら授業を組み立てるとともに、児童生徒に明示することで、より効果的な振り返りを継続的、発展的に行う。
- ・学校と地域、双方の目的を共有し、事前の打ち合わせを充実させることで、より学習効果が高まる地域展開を検討、実施する。

4 研究仮説

過年度の研究で見いだされた要点を活用しながら、児童生徒が地域の中でチャレンジする授業づくりに取り組む。意欲的に学ぶ中で、育成を目指す資質・能力に迫るよう実態把握を丁寧に行うとともに、児童生徒自身が学びや成長を実感できる振り返りを実施する。そのために、単元を通して評価のタイミングや評価の方法にあらかじめ見当を付けること、振り返りの視点を設け明示すること、ICTを効果的に活用することに取り組む。それらを通して授業の質が向上し、児童生徒に本物の力を付けることができるだろう。

5 研究の内容と方法

(1) 全校授業研究会及び公開研究会に向けた授業づくりと授業の改善

- ・児童生徒の実態把握や、これまでの学びの記録を基に、身に付けさせたい資質・能力を明らかにし、意欲的に取り組むことができる単元を検討しつつ、単元や小単元といった一定の時間のまとまりを意識した授業づくりに取り組む。
- ・年度の早い時期に「生単をつくる会」を実施し、それを踏まえて単元検討会を行う。単元づくりシートを用いて単元構成を可視化し、いつ、どんな学習活動を行うか、どんな学習場面をもって評価とするか、単元の中に含まれる各教科等の目標や内容は何か等、学習活動の計画に留まらない単元検討会を行う。
- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業づくりをするために、過年度の研究を通して得たポイントを活用する。また、計画的に児童生徒の変容を見取り、単元や授業の改善を行う。

(2) 単元や授業を通した効果的で計画的な評価や振り返りの実施

- ・本時、または単元を通して学んだことや疑問に思ったこと等について、考えを整理し振り返ったり、自身の頑張りや友だちの頑張りに気付いたりすることができるように、継続的に振り返りの時間を設定する。そのために、振り返りの視点を教室内に掲示し、児童生徒がいつでも活用できるようにする。
- ・「児童生徒に何をどのように振り返らせるか」という視点で単元や授業を組み立てることで、単元や本時のねらいを明らかにして学習活動を展開できるようにする。また、ねらいに応じた評価をするためにどの場面を見取るのが適切か、あらかじめ計画する等計画的に学習活動が展開されるようにする。
- ・児童生徒自身が成長を実感するために、ICTを効果的に活用する。写真や映像で本時の取組を振り返ることに加えて、単元の前後等を比べ、長期的な時間を経ての自身の変容に気付くことができるようにする。

(3) 年間指導計画検討会の実施と各学年の計画の共有

- ・「各教科等を合わせた指導」の単元計画について検討した上で「各教科の指導」の実施時期や内容について検討、精選し、関連付けて学習することで、効果的な資質・能力の育成を目指す。また、年間指導計画検討会の場を活用し、定期的に児童生徒の変容や成長を捉え、それに応じて単元構成や指導内容を工夫する。
- ・地域資源の活用や、校内資源の活用（他学部や他学年との効果的な共同学習）を推進するために、各学年の検討用紙を全校で共有する。また、効果的な取組を紹介し合い、指導の参考にする。

(4) 職員研修の実施

- ・児童生徒が学びや成長を実感できるまとめや振り返りの在り方、身に付けた資質・能力の活用につながる授業づくりや単元づくりに向けた研修会を行う。
- ・大館市内の小・中学校の授業参観（通常学級）を通して、授業の導入や展開、まとめ及び振り返りについて様々な方法に触れ、日々の授業実践に生かす。

(5) 一人一授業研究会の実施

- ・単元や授業において児童生徒にどのような力を身に付けさせるのかを明確にし、授業づくりに取り組む。めあてとまとめの整合性に留意するとともに、効果的な振り返りを行うために振り返りの視点を活用する。全職員が授業を提示することを基本とする。
- ・本時の目標に対して評価の視点（評価規準）を設け、それに則して児童生徒の変容を見取る。また、児童生徒が自身の変容や成長を実感できるようICTを効果的に活用する等振り返り場面に工夫を施す。
- ・授業者の希望に沿ってあらかじめ指導助言者を決定することで確実に助言を得られる体制を整える。また、職員の希望を募り参観者をあらかじめ割り当て、授業者、参観者双方に有意義な研修となるようにする。オーダーシートを活用し、指導助言を蓄積することで、その後の授業づくりに活用できるようにする。

6 研究計画

〈1年次〉

月	全体・学部	段階	研究活動の評価の観点
4	<ul style="list-style-type: none"> ・全体研究の立案 ・生単をつくる会 4日～11日 ・年間指導計画検討会① 12日、② 21日 ・全校研究会① 15日（研究の概要提示） 	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・研究の目的の達成に向け、全体研究での取組が学部研究に適切に反映され、各学部に周知されているか。
5	<ul style="list-style-type: none"> ◎一人一授業研究会の開始（令和5年5月から令和6年2月まで） ・研修日① 10日 ・全校研究会② 17日（学部研究の概要提示） 		
6	<ul style="list-style-type: none"> ・研修日② 14日 	実践・評価	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の構成や課題設定、評価の場面や方法を工夫しつつ、評価規準を指導者間で共有しながら資質・能力を育成するための単元づくりや授業づくりをしているか。 ・本時の学びを明確にしつつ、児童生徒が見通しをもったり、自身の学びや変容を実感したりするために振り返りの視点を活用しているか。 ・「授業づくりの5つのポイント」や「単元づくりの要点」「授業づくりの要点」を意識した授業づくりをしているか。 ・「各教科等を合わせた指導」において、「各教科等」のどのような「目標」や「内容」を含んでいるのか指導者間で共有したり、各教科等の指導と関連付けて効果的な学習を実施したりしているか。また、それらの達成状況が定期的に評価され、指導に反映されているか。 ・授業における学びが授業以外の場面でも活用されるような工夫をしているか。 ・授業のめあてが適切に設定され、児童生徒に提示されているか。 ・めあてから活動内容、まとめ、振り返りがつながっているか。
7	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回全校授業研究会 4日（中学部） ・第2回全校授業研究会 12日（高等部） 		
8	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画検討会③ 1日 ・職員研修 21日 ・研修日③ 23日 		
9	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回全校授業研究会 13日（小学部） 		
10	<ul style="list-style-type: none"> ・研修日④ 13日 		
11	<ul style="list-style-type: none"> ・研修日⑤ 29日 		
12	<ul style="list-style-type: none"> ・公開研究会 6日 ・研修日⑥ 13日 ・全校研究会③ 20日（研究の進捗状況の確認） ・研究紀要の原稿執筆 		
1	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画検討会④ 11日 ・職員研修 11日 ・研修日⑦ 24日 	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の変容とその要因が明確になっているか。 ・成果や課題、次年度への方向性が仮説に基づいてまとめられているか。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・全校研究会④ 14日（研究の成果と課題報告） ・年間指導計画検討会⑤ 28日 ・研究紀要の印刷・丁合・製本 		
3	<ul style="list-style-type: none"> ・研究紀要の完成・配付 		